

グエン・イニィ

ベトナム出身

麗澤大学 外国語学部外国語学科

平和とは

今日まで、人類は 20 世紀前半の 2 つの世界大戦を忘れることはできない。過去多くの苦痛を経験した私たちは、戦争は良い選択ではないことや平和の価値を深く理解できると思う。誰もが今の平和な時期を大切に思い、最も平和を守りたいと思っているだろう。戦争がまだ続いている国があるのが残念だが、全体的に見ると現在では世界は一番平和な時期だと言われる。平和のおかげで人々は安心して幸せな生活を築くことができ、社会が発展することができる。そして、現代においては、平和は戦争がない状況という意味だけを持つのではなく、平和はもっと広い意味を持っていると思う。私には、平和とは皆が誰一人取り残されないでお互いに協力して生活の質を向上させる社会が実現できる状態だと考える。さらに、平和とは多文化共生社会が実現できる状態だと考える。

歴史を振り返ると、平和は、力の均衡に基づいており、期待と協力のパターンの構造を含んでいる。そして、期待と力の間のギャップが大きくなると、平和は不安定になり、紛争、暴力、戦争によって崩壊する可能性があるだろう。したがって、世界平和を維持するため、世界の人々はお互いに国と国の間に、または人と人の間に、期待と力の間のギャップを縮めるために協力すべきだと考える。

世界にはまだ 7 億 6600 万人近くの極度の貧困状態にある人々がいるという事実を考えると、貧困は大きな課題だ。そして、貧しい人々

は学校に行くことができず、人の基本的なニーズも受けられないという問題もある。そのような不公正と不平等の問題は世界の多くの地域で続いている。そのため、変革し安心安全で平和な世界に近づいていくよう、各国、企業、個人の私たちは誰一人取り残さないで、お互いに協力して生活の質を向上させるべきだ。世界での期待と力の間のギャップを縮めるために、私たちは国連の持続可能な開発目標 (SDGs) を達成すべきだ。SDGs は「世界規模の課題をより早く解決するため」に必要な目標である。つまり、SDGs は世界の平和の鍵だと考える。

一方、現代では平和とは多文化共生社会が実現できる状態だと考える。総務省によると、多文化共生は、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」と定義されている。現代、人々は過去より世界中を旅したり、海外で働いたり、生活したりすることが簡単にできる。しかし、世界でそれぞれの文化、宗教には異なる特徴がある。さらに、それぞれの人の経験や考えも同じではない。私たちはしばしば戦争のない生活を目指して、平和というが、文化や考え方の違いによる差別、不公平がある場合、平和だとはいえないだろう。だから、現在グローバル化社会では平和に共生できるためにお互いに相手の文化背景を理解し、尊重すべきだと考える。相手の文化を尊重することも平和な行為であると思う。平和はそのような小さな行為から始まると思う。だからこそ、平和とは多文化共生社会が実現できる状態だと考える。

1896 年を皮切りに始まったオリンピックが 4 年ぶりに東京で開催されている。1896 年から現在に至るまで、世界は多くの戦争を経験したが、オリンピックのような国際的なイベントは人類の戦争のない平和な世界への願いだと思う。私は、オリンピックが多くの国で開催されることはどこの国も取り残される国がないことを示すと考える。そして、それぞれの国で開催されるたびに、その国の文化と全世界が交流する機会になることで多文化社会に向けた望みではないかと思う。東京オリンピックで世界の平和の望みがみえるだろう。そして、これから平和とは国と国の間の平和だけではなく、人々の中の平和だと考えるべきだ。このように私は、平和とは皆が誰一人取り残されないでお互いに協力して生活の質を向上させる社会が実現できる状態だと考える。さらに、平和とは多文化共生社会が実現できる状態だと考える。

以上